

証券コード 3990  
2020年8月4日

株 主 各 位

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
U U U M 株 式 会 社  
代表取締役社長 CEO 鎌 田 和 樹

### 第7回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第7回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

株主の皆様におかれましては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、ご自身の健康状態にかかわらず、極力、書面又はインターネットにより事前に議決権をご行使いただき、当日のご来場をお控えいただくよう強くお願い申し上げます。

この場合、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、2020年8月24日（月曜日）午後7時までに議決権を行使いただきますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本年は定時株主総会後の事業説明会は開催いたしません（なお、本定時株主総会の終了後、事業報告の動画を当社ウェブサイトに掲載いたします）。また、株主様同士のお席の間隔を十分確保するため、ご用意できる座席数が例年より大幅に減少（定員50名）することから、当日ご来場いただいてもご入場をお断りする場合がございます。株主の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、株主様からは、当社ウェブサイト上（<https://www.uuum.co.jp/ir-stockholders>）で事前に質問を受け付けた上で、株主の皆様に関心が高い事項については、本定時株主総会の後、その回答を当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

敬 具

記

- |                |   |
|----------------|---|
| 1 日 時          | 2020年8月25日（火曜日）午前10時00分（受付開始：午前9時00分）                                     |
| 2 場 所          | 東京都港区六本木七丁目18番18号<br>住友不動産六本木通ビル ベルサール六本木B1<br>(末尾の会場ご案内図をご参照ください。)       |
| 3 目的事項<br>報告事項 | 1. 第7期（2019年6月1日から2020年5月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件 |

2. 第7期（2019年6月1日から2020年5月31日まで）計算書類報告の件

**決議事項**

- 第1号議案 定款一部変更の件
- 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件
- 第3号議案 監査等委員である取締役1名選任の件
- 第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

- 4 議決権の行使に関する事項
1. 各議案について賛否の表示がない議決権行使書面が提出された場合は、賛成の意思の表示があったものとして取り扱わせていただきます。
  2. 議決権行使書面又はインターネットにより重複して議決権を行使された場合においては、インターネットによる議決権の行使を有効なものとして取り扱わせていただきます。
  3. インターネットによる方法により、複数回にわたり議決権が行使された場合は、最後に行われたものを有効なものとしたします。
  4. 代理人により議決権を行使される株主様は、当社の議決権を有する他の株主1名を代理人に選任して、その議決権を行使することができます。なお、この場合、代理権を証明する書面として、委任状及び株主様ご本人の議決権行使書用紙をご提出ください。
  5. 議決権の不統一行使をされる場合は、株主総会の日3日前までに、議決権の不統一行使を行う旨とその理由を書面により当社にご通知ください。

以上

---

当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

会場入り口で非接触型体温計により検温を実施させていただきます。体調不良と見受けられる方やマスクを着用しない方のご入場をお断りさせていただく場合がございます。

今後の状況により、やむなく会場や開始時刻などを変更する場合がございます。その場合は、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.uuum.co.jp/ir>) に掲載させていただきますので、ご確認くださいようお願い申し上げます。

以下の事項につきましては、法令及び定款第17条の規定に基づき、上記当社ウェブサイト (<https://www.uuum.co.jp/ir>) に掲載いたしますので、後記の事業報告には記載しておりません。

①連結計算書類の連結株主資本等変動計算書及び連結注記表

②計算書類の株主資本等変動計算書及び個別注記表

なお、監査等委員会又は会計監査人が監査報告又は会計監査報告を作成するに際して監査をした書類は、後記の事業報告に記載の各書類のほか、上記当社ウェブサイトに掲載する上記①、②の書類となります。

万が一株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、修正後の事項を当社ウェブサイト (<https://www.uuum.co.jp/ir>) に掲載させていただきます。

本定時株主総会の決議結果につきましては、書面による決議通知のご送付に代えて、本定時株主総会終了後、上記当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

事前質問の受付についてのご案内

(1) 方法

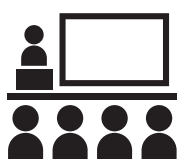
当社ウェブサイト (<https://www.uuum.co.jp/ir-stockholders>) の「事前質問受付」より、必要事項及びご質問事項をご入力ください。

(2) 受付

2020年8月20日（木曜日）午後7時までに当社に到着しましたご質問のうち、株主の皆様のご関心が高い事項につきましては、本定時株主総会后、その回答を当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

## 議決権行使のご案内

### 株主総会にご出席いただける場合



#### 株主総会への出席

同封の議決権行使書用紙をご持参いただき、会場受付にご提出ください。  
また、議事資料として本冊子をご持参くださいますようお願い申し上げます。

**開催日時** 2020年8月25日（火曜日）午前10時

### 株主総会にご出席いただけない場合



#### 書面による議決権行使

同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、ご返送ください。

**行使期限** 2020年8月24日（月曜日）午後7時必着



#### インターネットによる議決権行使

当社の指定する議決権行使ウェブサイト (<https://www.web54.net>) にアクセスしていただき、画面の案内に従って、賛否をご入力ください。  
なお、詳細につきましては、次頁をご参照ください。

**行使期限** 2020年8月24日（月曜日）午後7時まで

#### ご注意事項

※書面による議決権行使とインターネットによる議決権行使が重複してなされた場合は、到着日時を問わずインターネットによるものを有効な議決権行使といたします。

※インターネットによる議決権行使が複数回なされた場合は、最後のものを有効な議決権行使といたします。

※議決権行使ウェブサイトをご利用いただく際のプロバイダへの接続料金および通信事業者への通信料金等は、株主の皆様のご負担となります。



(提供書面)

## 事業報告

(2019年6月1日から  
2020年5月31日まで)

### 1. 企業集団の現況

#### (1) 当連結会計年度の事業の状況について

##### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国の経済は、設備投資及び雇用の改善が緩やかに続いておりましたが、海外で米中貿易摩擦の過熱や英国のEU離脱問題などにより先行きの不透明感が広がりました。加えて、新型コロナウイルス感染拡大による影響の深刻化により世界的な景気後退に突入する懸念が強まっております。

このような状況の中でも、当社グループは、オンラインを中心とした事業特性を生かしてクリエイターサポート業務等を継続して展開しております。

当社グループは、クリエイターサポートを主たるサービスとして展開しておりますが、国内の端末別インターネット利用状況を見ると、スマートフォンの保有率が2019年9月で67.6%となり(総務省2019年「通信利用動向調査」)、スマートフォンの普及や通信インフラの発達に伴い、これまで以上に動画の視聴機会が増えております。このような事業環境のもと、新たなクリエイターの獲得や育成、クリエイターを活用したプロモーションビジネスの拡大など、事業基盤の強化に努めるとともに、チャンネル運営、イベント、グッズといった新規事業の更なる拡大にも注力してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は224億59百万円(前連結会計年度比13.9%増)、営業利益は9億93百万円(同20.3%減)、経常利益は9億32百万円(同25.2%減)となりました。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためのイベント自粛による損失、本社移転に伴う一時費用、および投資先の評価損失を特別損失として計上したことなどから、親会社株主に帰属する当期純利益は3億58百万円(同59.6%減)となりました。なお、当社グループは動画コンテンツ事業の単一セグメントのため、セグメントごとの記載はしておりません。

##### ② 設備投資の状況

当連結会計年度中において実施いたしました当社グループの設備投資(無形固定資産を含む)の総額は1,214,984千円であり、その主なものは、次のとおりであります。

|           |   |           |
|-----------|---|-----------|
| 建物        | 本社移転及びオフィス増床に伴う内装工事費用                       | 381,699千円 |
| 工具、器具及び備品 | 本社移転及びオフィス増床、人員増加に伴う備品購入費用                  | 66,926千円  |
| ソフトウェア    | 自社利用システムの開発費用                               | 66,357千円  |
| 契約関連無形資産  | 吉本興業株式会社が持つMCN(マルチチャンネルネットワーク)運営権の一部譲受に伴う支出 | 700,000千円 |

③ 資金調達の状況

当連結会計年度においては、主として事業拡大に向けた投資、本社の移転に伴う支出及び新型コロナウイルスの影響に備えた手元流動性の保持等を目的として、主要取引金融機関２行から借入金による資金調達を行いました。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

当社は、2020年5月をもって、吉本興業株式会社が持つMCN（マルチチャンネルネットワーク：複数のYouTubeチャンネルと連携し、動画制作、企業とのタイアッププロモーション、視聴者の獲得、ノウハウ提供、デジタル著作権管理、収益受け取りなどの面で支援を提供する事業体を総称していいます。）運営権の一部譲受及び同社との業務提携契約を締結いたしました。

⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

当社は、2019年7月をもって、株式会社ピースオブケイク（現：note株式会社）の株式を取得いたしました。また、2020年1月をもって、SUGAR株式会社の株式を取得いたしました。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                            | 第 4 期<br>(2017年5月期) | 第 5 期<br>(2018年5月期) | 第 6 期<br>(2019年5月期) | 第 7 期<br>(当連結会計年度)<br>(2020年5月期) |
|--------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|----------------------------------|
| 売 上 高 (千円)                     | 6,983,347           | 11,735,545          | 19,726,432          | 22,459,941                       |
| 経 常 利 益 (千円)                   | 350,877             | 703,683             | 1,247,857           | 932,871                          |
| 親 会 社 株 主 に<br>帰属する当期純利益 (千円)  | 257,629             | 406,363             | 889,210             | 358,945                          |
| 1 株 当 た り<br>当 期 純 利 益 金 額 (円) | 15.06               | 22.65               | 47.82               | 18.58                            |
| 総 資 産 (千円)                     | 2,184,419           | 3,657,540           | 6,305,768           | 10,486,693                       |
| 純 資 産 (千円)                     | 684,163             | 1,806,263           | 2,840,414           | 3,363,644                        |
| 1 株 当 た り 純 資 産 (円)            | 40.01               | 99.04               | 149.89              | 171.29                           |

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。また、1株当たり純資産は、期末発行済株式総数に基づき算出しております。

2. 当社は、2017年5月25日付で普通株式1株につき40株、2018年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行いました。第4期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

### ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分                            | 第 4 期<br>(2017年5月期) | 第 5 期<br>(2018年5月期) | 第 6 期<br>(2019年5月期) | 第 7 期<br>(当事業年度)<br>(2020年5月期) |
|--------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------------------|
| 売 上 高 (千円)                     | 6,983,347           | 11,735,545          | 19,726,432          | 22,459,941                     |
| 経 常 利 益 (千円)                   | 351,303             | 703,494             | 1,248,367           | 984,252                        |
| 当 期 純 利 益 (千円)                 | 258,072             | 406,271             | 889,807             | 360,495                        |
| 1 株 当 た り<br>当 期 純 利 益 金 額 (円) | 15.09               | 22.65               | 47.85               | 18.66                          |
| 総 資 産 (千円)                     | 2,185,796           | 3,657,923           | 6,306,136           | 10,487,441                     |
| 純 資 産 (千円)                     | 684,606             | 1,806,614           | 2,841,363           | 3,366,143                      |
| 1 株 当 た り 純 資 産 (円)            | 40.03               | 99.06               | 149.94              | 171.42                         |

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。また、1株当たり純資産は、期末発行済株式総数に基づき算出しております。

2. 当社は、2017年5月25日付で普通株式1株につき40株、2018年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行いました。第4期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。



### (3) 重要な子会社の状況

| 名 称                       | 住 所   | 資 本 金   | 議決権の<br>所有割合 | 主要な事業の内容                  |
|---------------------------|-------|---------|--------------|---------------------------|
| (連結子会社)<br>UUUM P A Y株式会社 | 東京都港区 | 1,000千円 | 100.0%       | 当社所属クリエイターへの<br>支払業務全般    |
| (連結子会社)<br>UUUMウェルス株式会社   | 東京都港区 | 5,000千円 | 100.0%       | 当社所属クリエイターへの<br>金融サービスの提供 |

### (4) 対処すべき課題

#### ① クリエイターサポートの強化

当社グループは、クリエイターに対して、バディ（マネージャー）によるサポートからタイアップ案件の獲得、イベントの開催、クリエイターグッズの販売、バックヤードのサポートなど、様々な側面でクリエイターのバックアップに努めております。新型コロナウイルスはクリエイターの活動環境に変化をもたらしましたが、当社グループはそのような変化を好機と捉え、オンラインを中心とした当社事業の強みを生かしてコロナウイルス禍のもとでもクリエイターが活躍のフィールドを広げ、多くのファンを獲得できるよう、サポート体制を更に強化し、多様化するクリエイターのニーズにも応えてまいります。そして、インターネット上で活躍する全てのクリエイターにとって、必要不可欠な存在を目指してまいります。

#### ② 人材育成による生産性の向上

当社グループにとって最も重要な資産は「人」であり、優秀な人材の獲得や人材育成は当社にとって重要な経営課題の一つであると認識しております。当社グループは、企業理念の社内浸透やリモートワーク環境の整備及びオンライン研修制度の整備を強化し、人材育成を通じて会社全体の生産性を向上させることで、さらなる収益性の向上に努めてまいります。

#### ③ コンテンツ管理体制の強化

当社グループは、健全なコンテンツを発信していくことが、中長期的なメディアとしての視聴者獲得や広告主の獲得につながるとの考えのもと、クリエイターに対するコンプライアンス研修やコンテンツ管理に注力してまいりました。昨今では、インターネット上のコンテンツの健全性に対する世間の関心がますます高まっていることから、引き続き当社グループとしてコンテンツ管理体制を一層強化してまいります。

#### ④ 新しい収益柱の確立

当社グループは、従来、アドセンス収益（YouTubeチャンネル上に表示される広告に関連して生じる収益をいいます。）やタイアップを中心とした広告収益に依存した構造になっておりました。多様なプラットフォーム上での活動領域の広がりを契機として、今後は、所属クリエイターに更なる収益メリットを

実現するとともに、当社グループの収益多様化の実現に向けて、新たな収益柱の確立に努めてまいります。

⑤ M&Aによる成長加速

既存事業において、強化・領域拡大・効率化等の面でシナジーが発揮できる企業に対して業務提携やM&Aを積極的に実行し、競争力の強化を図ってまいります。

⑥ 組織体制の強化

当社グループの継続的な成長には、事業拡大に応じて優秀な人材を採用し、組織体制を整備していくことが重要であると考えております。当社グループの理念に共感し、高い意欲を持った優秀な人材を採用していくために、積極的な採用活動を行っていくとともに、従業員が働きやすい環境の整備、人事制度の構築を行ってまいります。

⑦ 継続的な業務改革への取り組み

クリエイターの活動領域の拡大に伴い、当社の事業領域は多岐に渡っております。事業の規模や多角化に合わせた業務改革を継続的に行っていくことで、会社全体の生産性向上に取り組んでまいります。具体的には、ITシステムの導入、社内制度やオペレーションの見直し、人材戦略の見直し、などに中長期目線で取り組むことによって、社員一人当たりのビジネス有効時間の拡大や生産性の拡大、継続的なコスト削減を実現してまいります。

⑧ 海外展開

当社グループの所属クリエイターの動画視聴層は国内がほとんどですが、海外にはより多くの潜在的な視聴者がいると考えております。海外のMCN（マルチチャンネルネットワーク）との協業を深めることにより、プロモーション案件の相互紹介やクリエイターのコラボレーションなど補完メリットを実現していきたいと考えております。また、海外コンテンツホルダーからのコンテンツ調達、海外プラットフォームへのコンテンツ提供にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

⑨ 情報管理体制の強化

当社グループは、クリエイターの個人情報も多く預かっており、その情報管理を強化していくことが重要であると考えております。現在、個人情報保護方針及び社内規程に基づき管理を徹底しておりますが、今後も社内教育・研修の実施やシステムの整備などを継続して行ってまいります。

(5) 主要な事業内容 (2020年5月31日現在)

| 事業区分           | 事業内容                                   |
|----------------|--|
| クリエイターサポートサービス | クリエイターの様々な活動のサポートやクリエイターを活用した企業プロモーション |
| 自社サービス         | 番組制作・チャンネル運営や、ゲームの開発・運営等               |

(6) 主要な営業所及び工場 (2020年5月31日現在)

① 当社

|    |                    |
|----|--------------------|
| 本社 | 東京都港区赤坂九丁目7番1号     |
| 支店 | 宮崎県宮崎市橘通西3丁目10番27号 |

② 子会社

|              |                |
|--------------|----------------|
| UUUM PAY株式会社 | 東京都港区赤坂九丁目7番1号 |
| UUUMウェルス株式会社 | 東京都港区赤坂九丁目7番1号 |

(注) 当社の本社並びに当社の子会社であるUUUM PAY株式会社及びUUUMウェルス株式会社の所在地は、2020年3月23日付で「東京都港区六本木六丁目10番1号」から上記へ変更しております。

(7) 使用人の状況 (2020年5月31日現在)

| 従業員数 | 前連結会計年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-------------|-------|--------|
| 471名 | 89名増        | 30.8歳 | 1.96年  |

(注) 従業員数には、契約社員及び当社グループから社外への出向者を含み、臨時従業員（アルバイトを含む）は含んでおりません。

(8) 主要な借入先の状況 (2020年5月31日現在)

| 借入先        | 借入額         |
|------------|-------------|
| 株式会社三井住友銀行 | 2,286,684千円 |
| 株式会社みずほ銀行  | 1,431,064千円 |

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況 (2020年5月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 68,400,000株
- ② 発行済株式の総数 19,563,060株
- ③ 株主数 22,146名
- ④ 大株主

| 株 主 名                                       | 持 株 数<br>(株) | 持 株 比 率<br>(%) |
|---|--------------|----------------|
| 鎌 田 和 樹                                     | 7,043,930    | 36.00          |
| 梅 田 裕 真                                     | 1,800,000    | 9.20           |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)                  | 632,500      | 3.23           |
| 開 発 光                                       | 454,770      | 2.32           |
| い ち よ し 証 券 株 式 会 社                         | 165,400      | 0.84           |
| 松 井 証 券 株 式 会 社                             | 165,000      | 0.84           |
| 中 尾 充 宏                                     | 157,080      | 0.80           |
| M S C O C U S T O M E R S E C U R I T I E S | 153,100      | 0.78           |
| 服 部 義 一                                     | 150,000      | 0.76           |
| 渡 辺 崇                                       | 144,320      | 0.73           |

- (注) 1. 当社は、自己株式を保有しておりません。  
2. 持株比率 (%) は、小数点3位以下を切捨てし表示しております。

- ⑤ その他株式に関する重要な事項  
該当事項はありません。

## (2) 新株予約権等の状況

① 当事業年度末日において当社役員が保有する職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

- ・新株予約権の数  
3,172個
- ・目的となる株式の種類及び数  
普通株式 380,640株 (新株予約権 1個につき120株)
- ・取締役の保有する新株予約権の区分別合計

| 区 分                   | 回 次<br>(1株当たりの行使価額) | 行使の条件 | 行 使 期 間                      | 個 数    | 保有者数 |
|-----------------------|---------------------|-------|------------------------------|--------|------|
| 取締役 (監査等委員である取締役を除く。) | 第2回 (167円)          | (注)   | 2016年12月2日から<br>2024年12月1日まで | 2,556個 | 2名   |
| 取締役 (監査等委員である取締役を除く。) | 第7回 (367円)          | (注)   | 2019年2月23日から<br>2027年2月22日まで | 616個   | 2名   |

(注) 新株予約権の行使条件

### (1) 行使条件

- ① 本新株予約権の行使は、行使しようとする本新株予約権または権利者について、会社が新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件に定める取得事由が発生していないことを条件とし、取得事由が生じた本新株予約権の行使は認められないものとする。但し、会社が特に行使を認めた場合はこの限りでない。
- ② 本新株予約権の行使は1新株予約権単位で行うものとし、各新株予約権の一部の行使は認められないものとする。
- ③ 権利者が1個又は複数の本新株予約権を行使した場合に、当該行使により当該権利者に対して交付される株式数は整数でなければならず、1株未満の部分についてはこれを切り捨て、株式は割り当てられないものとする。かかる端数の切り捨てについて金銭による調整は行わない。
- ④ 権利者は、会社の株式のいずれかの金融商品取引所への上場 (以下「株式公開」という。) がなされるまでの期間は、本新株予約権を行使することはできないものとする。

### (2) 行使可能割合

以下の各期間において権利者が行使することができる新株予約権の数の上限は、それぞれ以下に定める数とし、これに反する行使をすることはできないものとする。なお、以下において「割当数」とは、割当日において当該権利者に割り当てられた新株予約権の数を意味する。

株式公開の日から、株式公開後1年間が経過する日まで：割当数の0%

株式公開後1年間が経過した日以降、株式公開後2年間が経過する日まで：割当数の50%

株式公開後2年間が経過した日以降、株式公開後3年間が経過する日まで：割当数の50%

株式公開後3年間が経過した日以降：行使数の制限はない

② 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員の状況

#### ① 取締役の状況 (2020年5月31日現在)

| 会社における地位     | 氏名   | 担当及び重要な兼職の状況   |
|--------------|------|--|
| 代表取締役        | 鎌田和樹 | SUGAR株式会社代表取締役   |
| 取締役          | 梅景匡之 | ライブ・エンタテインメントユニット、<br>メディアユニット、社長室、システムユニット担当                                  |
| 取締役          | 中尾充宏 | コーポレートユニット担当   |
| 取締役          | 渡辺崇  | 経営企画室担当  |
| 取締役          | 市川義典 | バディ・プランニングユニット担当<br>プラットフォームユニット担当   |
| 取締役(常勤監査等委員) | 山田裕介 | 東洋エンジニアリング株式会社社外取締役  |
| 取締役(監査等委員)   | 砂田浩孝 | 株式会社はせがわ専務取締役  |
| 取締役(監査等委員)   | 長南伸明 | 長南伸明公認会計士事務所所長<br>株式会社スタジオアタオ取締役<br>株式会社gumi社外取締役<br>SFPホールディングス株式会社取締役(監査等委員) |
| 取締役(監査等委員)   | 河島勇太 | 森・濱田松本法律事務所パートナー弁護士  |

- (注) 1. SUGAR株式会社は当社の持分法適用関連会社であります。
2. 山田裕介、砂田浩孝、長南伸明及び河島勇太の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
3. 山田裕介、砂田浩孝及び長南伸明の各氏は、株式会社東京証券取引所に独立役員として届け出ております。
4. 当社の監査等委員会の体制は次のとおりであります。
- 委員長 山田裕介  
委員 砂田浩孝  
委員 長南伸明  
委員 河島勇太
5. 当社は、4名の監査等委員のうち1名が常勤監査等委員に就任しております。常勤監査等委員を選定している理由は、日常的な情報収集、取締役会以外の重要な会議等への出席、内部監査部門との十分な連携を通じて、監査等委員会による監査の実効性を高めるためであります。
6. 監査等委員である取締役長南伸明氏は、公認会計士であり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
7. 監査等委員である取締役河島勇太氏は、弁護士であり、企業に関する法務、特にコーポレートガバナンスに関する知見を有しております。

#### ② 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役の全員は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

③ 取締役の報酬等  
当事業年度に係る報酬等の総額

| 区 分                                    | 員 数        | 報 酬 等 の 額               |
|--|------------|-------------------------|
| 取 締 役<br>(監査等委員である取締役を除く。)             | 5名         | 129,487千円               |
| 監 査 等 委 員 である 取 締 役<br>(う ち 社 外 取 締 役) | 4名<br>(4名) | 33,180千円<br>(33,180千円)  |
| 合 計<br>(う ち 社 外 取 締 役)                 | 9名<br>(4名) | 162,667千円<br>(33,180千円) |

- (注) 1. 取締役(監査等委員である取締役を除く。)の報酬限度額は、2017年8月31日開催の第4回定時株主総会において、年額200,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。  
2. 監査等委員である取締役の報酬限度額は、2018年8月21日開催の第5回定時株主総会において、年額50,000千円以内と決議いただいております。

④ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等との重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

社外取締役山田裕介氏は、東洋エンジニアリング株式会社の社外取締役を務めております。兼職先と当社との間には、特別の利害関係はありません。

社外取締役砂田浩孝氏は、株式会社はせがわの専務取締役を務めております。兼職先と当社との間には、特別の利害関係はありません。

社外取締役長南伸明氏は長南伸明公認会計士事務所の公認会計士であり、株式会社スタジオアタオの取締役、株式会社gumiの社外取締役、SFPホールディングス株式会社の取締役(監査等委員)を務めております。なお、株式会社スタジオアタオは当社の取引先ですが、同社との取引実績は、当社の当期決算における売上高の0.1%未満であり、僅少であります。その他の兼職先と当社との間には特別の利害関係はありません。

社外取締役河島勇太氏は、森・濱田松本法律事務所のパートナー弁護士であり、当社と同法律事務所との間には顧問契約がありますが、同氏は、当社の委任案件には一切関与しておらず、同氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

ロ. 当社又は当社の特定関係事業者の業務執行者又は業務執行者でない役員との親族関係  
該当事項はありません。

八、当事業年度における主な活動状況

|                       | 出席状況及び発言状況   |
|-----------------------|--|
| 取締役 (常勤監査等委員)<br>山田裕介 | 当事業年度に開催された取締役会 16回、及び監査等委員会13回全てに出席いたしました。主に豊富なマネジメント経験と幅広い見識に基づき、経営全般の見地から、議案・審議等につき必要な発言を適宜行っております。 |
| 取締役 (監査等委員)<br>砂田浩孝   | 当事業年度に開催された取締役会 16回、及び監査等委員会13回全てに出席いたしました。主に豊富なマネジメント経験と幅広い見識に基づき、経営全般の見地から、議案・審議等につき必要な発言を適宜行っております。 |
| 取締役 (監査等委員)<br>長南伸明   | 当事業年度に開催された取締役会 16回、及び監査等委員会13回全てに出席いたしました。主に公認会計士としての専門的見地から、議案・審議等につき必要な発言を適宜行っております。                |
| 取締役 (監査等委員)<br>河島勇太   | 当事業年度に開催された取締役会 16回、及び監査等委員会13回全てに出席いたしました。主に弁護士としての専門的見地から、議案・審議等につき必要な発言を適宜行っております。                  |

(4) 会計監査人の状況

① 名称 EY新日本有限責任監査法人

② 報酬等の額

|                                     | 報酬等の額    |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 35,500千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 35,500千円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、取締役からの報告を通じて、監査内容、監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、当事業年度の監査時間及び報酬額の見積もりの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬額等につき相当と判断し、会社法第399条第1項の同意を行っております。

③ 非監査業務の内容  
該当事項はありません。

④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針  
監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。



### 3. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

#### (1) 業務の適正を確保するための体制

当社では、「内部統制システムに関する基本方針」を制定するとともに、各種社内規程を整備し、役職員の責任の明確化を行うことで法令、定款及びその他規程遵守の徹底を図り、内部統制システムが有効に機能する体制を確保しております。

- ① 当社及び子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - ・ 当社は、当社及び子会社（以下、「当社グループ」という。）の取締役、執行役員及び使用人が、当社が社会の中で活躍する企業であることを認識し、コンプライアンス意識を高く持つことを行動規範とし、行動規範の継続的な教育・啓発に努めるとともに、当社グループの取締役及び執行役員の権限と役割を明確にすることにより、当社グループの適法かつ公正な企業活動を確保する。
  - ・ 当社は、当社グループの適法かつ公正な企業活動を確保し、企業価値の継続的な向上を図るため、代表取締役を委員長とするコンプライアンス・リスクマネジメント委員会を設置する。コンプライアンス・リスクマネジメント委員会は、事業リスク対策チーム、財務会計対策チーム、資産保全対策チーム、危機管理対策チーム、情報セキュリティ対策チーム、個人情報保護対策チーム、コンプライアンス対策チーム、及び緊急トラブルシューティングチームをその構成要素とし、それぞれの長に取締役を置くことで組成される。コンプライアンス・リスクマネジメント委員会は、内部統制システム全体を統括し、当社グループの適法かつ公正な企業活動の推進やリスク対策の施策などを審議・決定し、その活動状況を定時取締役会に報告する。
  - ・ 取締役会は、法令、定款、株主総会決議、「取締役会規程」に従い、経営に関する重要事項を決定する。
  - ・ 取締役（監査等委員である取締役（以下、「監査等委員」という。）を除く。）は、取締役会の決定した役割に基づき、法令、定款、取締役会決議及び「職務権限規程」その他の社内規程に従い、当社の業務を執行する。
  - ・ 代表取締役は、定期的に職務の執行状況を取締役に報告する。
  - ・ 業務執行を担当する取締役の監督の維持・強化のため、監査等委員を選任する。
  - ・ 監査等委員会は、常勤監査等委員が中心となって他の社内機関より独立した立場から、内部統制システムの整備・運用状況、取締役（監査等委員を除く。）及び執行役員の職務の執行について「監査等委員会規程」に従い、適法性・妥当性監査を実施する。
  - ・ 当社は、反社会的勢力に対し、毅然とした態度で対応し、いかなる名目の利益供与も行わず、反社会的勢力との係わりを一切持たないようにすることを「反社会的勢力対策規程」において宣言し、「反社会的勢力対策規程」に従い、チェック体制の整備を行い、運用を実施する。
  - ・ 金融商品取引法に従い、財務報告の信頼性を確保するため、当社グループの内部統制の有効性を確保する体制の整備を行い、その運用状況を評価する。
  - ・ 当社のコンプライアンス担当者は、「コンプライアンス規程」に従い、コンプライアンス教育・研修の計画及び実施などにより社内全体におけるコンプライアンス意識を徹底する。
  - ・ 当社グループにおける法令・定款・その他諸規程に違反する行為を発見して是正することを目的に、

- 「コンプライアンス規程」に従い、当社の常勤監査等委員を通報・相談先とする内部通報窓口を設置する。
- ・法令・定款・その他諸規程の違反が認定された場合、「就業規則」に従い、懲罰委員会による処罰の対象とする。
  - ・代表取締役が指名する内部監査担当者は、「内部監査規程」に従い、法令、定款及び社内規程の遵守状況の有効性を監査し、監査結果及び改善課題を代表取締役及び監査等委員会に報告・提言するとともに、当該改善課題の対応状況を確認する。
  - ・当社は、2019年6月に過半数が独立社外取締役で構成される指名報酬委員会を設置し、同委員会への諮問を通じて当社の経営の透明化及び取締役の報酬決定プロセスの客観化・透明化を図っている。
  - ・当社は、2019年11月に業務執行取締役全員及び常勤の社外取締役全員で構成される投資委員会を設置し、当社の株式投資（自己運用を除く）に関する事項を審議・決定し、出資の適正を確保している。
- ② 当社の取締役（監査等委員を除く。）の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- ・取締役会議事録など重要な文書（電磁的記録を含む。）については、法令・「文書管理規程」に従って記録し、適切かつ安全に保存・管理し、取締役、執行役員及び内部監査担当者は、いつでもこれらを閲覧することができる。
  - ・取締役、執行役員及び使用人の職務の執行に係る情報については、情報資産の保護や情報開示に関する諸規程を策定し、これらに基づき適切かつ安全に保存・管理する。
- ③ 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ・取締役会で制定される「リスク管理規程」に従い、当社グループ全体のリスク管理体制の整備を推進する。
  - ・個別リスクに関して、リスク管理の対策組織で、予防的、継続的な教育、対応策などを審議・決定する。
  - ・リスク管理の対策組織は、定期的または必要に応じ、当社グループに関わるリスクを収集・特定し、その発生可能性及び影響度を分析・評価し、コンプライアンス・リスクマネジメント委員会に報告・提言する。
  - ・リスク管理の対策組織は、リスクの顕在化防止に必要な予防策を講じ、また、緊急事態を想定した事業継続計画、対応マニュアルを策定し、コンプライアンス・リスクマネジメント委員会の承認を得る。
  - ・緊急事態が発生した場合には、代表取締役をリスク統括責任者とする緊急事態対応体制を取り、そのリスクの大きさに応じて「対策本部」、「対策プロジェクト」、「対策チーム」などのレベル別の組織を編成して迅速に対応を実施する。
- ④ 当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ・代表取締役、取締役（監査等委員を除く。）及び執行役員は、「職務権限規程」、「職務分掌規程」に従い、代表取締役の指揮監督のもと権限及び責任の明確化を図り、迅速かつ効率的に業務を執行する。

- ・重要な業務遂行のうち、取引額が相対的に小さい等、事業全体の状況に鑑み取締役会決議事項との関係で相対的に重要性の低い業務執行については、より迅速で多面的な検討を行うために取締役及び常勤監査等委員である社外取締役で構成される経営会議で審議する。
- ⑤ 当社ならびにその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
    - ・ 当社は、当社グループ全体のコンプライアンス、リスクマネジメント体制の構築に努める。
    - ・ 当社は、当社グループの管理に関する諸規程を整備し、当該規程に基づいて必要な管理を行う。
    - ・ 内部監査担当者は、前各号に定める事項の整備・運用状況の有効性を評価し、監査結果及び改善課題を、代表取締役及び監査等委員会に報告・提言するとともに、当該改善課題の対応状況を確認する。
  - ⑥ 監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項
    - ・ 監査等委員会の職務を補助する使用人を配置し、監査等委員会の職務を補助する取締役は置かない。
  - ⑦ 当該使用人の取締役からの独立性に関する事項及び監査等委員会の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
    - ・ 当該使用人については、補助すべき監査等委員会及び監査等委員の職務に関連し、監査等委員会または監査等委員から指示を受けたとき、その指揮命令に従い、監査等委員でない取締役、執行役員からの指揮命令を受けない。
    - ・ 当該使用人の取締役からの独立性と監査等委員の指示の実効性を確保するため、当該使用人の任命・異動・評価等、人事に関する事項の決定には、監査等委員の同意を必要とする。
  - ⑧ 当社及び子会社の取締役及び使用人が監査等委員会に報告するための体制
    - ・ 当社グループの取締役、執行役員及び使用人は、取締役会その他重要な会議への監査等委員の出席の際に、職務の執行状況を報告する。このほか、監査等委員会からの求めに応じ、業務及び財産の状況などを報告する。
  - ⑨ 監査等委員会に報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
    - ・ 当社は、監査等委員会へ報告・通報したことを理由として、当社グループの当該取締役、執行役員及び使用人に対して解任、解雇その他いかなる不利な取扱いも行わないことを徹底し、これを周知する。
  - ⑩ 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項
    - ・ 監査等委員会及び監査等委員の職務の執行上必要と認める費用について、あらかじめ予算を計上する。
    - ・ 監査等委員がその職務の執行に関し、法令で定める費用の前払などの請求をしたときは、当社は、速やかに当該費用または債務を処理する。

- ・ 監査等委員がその職務の執行に関し、緊急または臨時に支出した費用については、速やかに事後に償還に応じる。

⑪ その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ・ 代表取締役と監査等委員会の間で定期的な意見交換会を開催する。
- ・ 監査等委員会は、監査等委員会と会計監査人及び内部監査室との間で定期的な連絡会を開催する。
- ・ 監査等委員は、経営会議、コンプライアンス・リスクマネジメント委員会など、各種会議体へ出席することができる。

**(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要**

① 取締役の職務執行について

当社は、毎月定時取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催し、経営課題について活発に議論し、重要事項について審議・決定しております。

また、取締役、執行役員及びその他経営陣幹部が出席する経営会議を、原則毎週開催し、取締役会で決議すべき事項以外の経営上重要な事項について審議、決定し、経営機能の強化に努めております。

また、取締役、執行役員及びその他経営陣幹部は「職務分掌規程」、「職務権限規程」及び「稟議規程」に基づき分担して職務を執行しております。

② コンプライアンス・リスクマネジメント体制について

当社は、「コンプライアンス規程」を制定し、入社時研修や全従業員を対象とした研修を定期的を実施するとともに、常勤監査等委員を通報・相談先とする内部通報窓口を設けるなど、コンプライアンス体制の整備を継続的に行っております。

コンプライアンス・リスクマネジメント委員会では、毎月、当社のコンプライアンスの状況、経営を取り巻く各種リスク、当社におけるリスクの発生について対応策を検討実施し、取締役会に報告・提言を行っております。

③ 監査等委員会の監査体制について

監査等委員会は、「監査等委員会規程」に基づいて開催され、法令等に定められた事項の決議を行っております。

また、常勤監査等委員は、社内の重要会議に出席するなど日常業務レベルで経営情報を収集し、意思決定の過程や内容について監査及び監督をしております。さらに、会計監査人、内部監査室と適宜情報交換を行い監査の実効性を確保しております。

## 連結貸借対照表

(2020年5月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目            | 金 額               |
|-----------------|-------------------|----------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>  |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>7,150,571</b>  | <b>流動負債</b>    | <b>5,704,881</b>  |
| 現金及び預金          | 4,330,373         | 買掛金            | 1,292,775         |
| 売掛金             | 1,614,360         | 短期借入金          | 1,500,000         |
| 商品              | 91,642            | 一年内返済予定の長期借入金  | 802,504           |
| 仕掛品             | 4,789             | 未払金            | 1,007,274         |
| 貯蔵品             | 864               | 未払費用           | 575,335           |
| 未収消費税等          | 965,545           | 未払法人税等         | 67,411            |
| その他             | 142,995           | 賞与引当金          | 212,762           |
| <b>固定資産</b>     | <b>3,336,122</b>  | 役員賞与引当金        | 23,607            |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>441,135</b>    | その他の他          | 223,211           |
| 建物              | 391,778           | <b>固定負債</b>    | <b>1,418,166</b>  |
| 減価償却累計額         | △43,966           | 長期借入金          | 1,415,244         |
| 建物(純額)          | 347,811           | その他の他          | 2,922             |
| 工具、器具及び備品       | 179,666           | <b>負債合計</b>    | <b>7,123,048</b>  |
| 減価償却累計額         | △87,218           | <b>(純資産の部)</b> |                   |
| 工具、器具及び備品(純額)   | 92,448            | <b>株主資本</b>    | <b>3,350,979</b>  |
| 建設仮勘定           | 876               | 資本金            | 787,148           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>1,166,642</b>  | 資本剰余金          | 756,148           |
| ソフトウェア          | 141,832           | 利益剰余金          | 1,807,682         |
| ソフトウェア仮勘定       | 49,989            | 新株予約権          | 12,665            |
| のれん             | 274,820           |                |                   |
| 契約関連無形資産        | 700,000           |                |                   |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>1,728,343</b>  |                |                   |
| 投資有価証券          | 563,638           |                |                   |
| 繰延税金資産          | 273,735           |                |                   |
| 敷金及び保証金         | 890,970           |                |                   |
| <b>資産合計</b>     | <b>10,486,693</b> | <b>純資産合計</b>   | <b>3,363,644</b>  |
|                 |                   | <b>負債純資産合計</b> | <b>10,486,693</b> |

## 連結損益計算書

(2019年6月1日から  
2020年5月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額        |
|-----------------|------------|
| 売上高             | 22,459,941 |
| 売上原価            | 16,256,432 |
| 売上総利益           | 6,203,509  |
| 販売費及び一般管理費      | 5,209,722  |
| 営業利益            | 993,786    |
| 営業外収益           |            |
| 受取利息            | 208        |
| 有価証券売却益         | 1,457      |
| 還付加算金           | 866        |
| 先物取引決済益         | 1,186      |
| その他             | 1,337      |
| <b>営業外費用</b>    |            |
| 支払利息            | 3,923      |
| 支払手数料           | 1,767      |
| 持分法による投資損失      | 50,000     |
| 為替差損            | 5,907      |
| その他             | 4,371      |
| <b>の利益</b>      | 65,970     |
| 経常利益            | 932,871    |
| 特別損失            |            |
| 本社移転費用          | 124,065    |
| 新型コロナウイルス関連損失   | 42,844     |
| 投資有価証券評価損       | 209,550    |
| 税金等調整前当期純利益     | 376,459    |
| 法人税、住民税及び事業税    | 289,501    |
| 法人税等調整額         | △92,034    |
| 当期純利益           | 197,466    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 358,945    |
|                 | 358,945    |

## 貸借対照表

(2020年5月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目            | 金 額               |
|-----------------|-------------------|----------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>  |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>7,145,319</b>  | <b>流動負債</b>    | <b>5,703,131</b>  |
| 現金及び預金          | 4,325,197         | 買掛金            | 1,292,775         |
| 売掛金             | 1,614,360         | 短期借入金          | 1,500,000         |
| 商成品             | 91,642            | 一年内返済予定の長期借入金  | 802,504           |
| 仕掛品             | 4,789             | 未払金            | 1,007,674         |
| 貯蔵品             | 864               | 未払費用           | 575,335           |
| 未収消費税等          | 965,378           | 未払法人税等         | 67,242            |
| 前払金             | 3,437             | 前受金            | 123,234           |
| 前払費用            | 104,348           | 前受収益           | 5,679             |
| その他の            | 35,301            | 預り金            | 77,456            |
| <b>固定資産</b>     | <b>3,342,122</b>  | 賞与引当金          | 212,762           |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>441,135</b>    | 役員賞与引当金        | 23,607            |
| 建物              | 391,778           | その他の           | 14,859            |
| 減価償却累計額         | △43,966           | <b>固定負債</b>    | <b>1,418,166</b>  |
| 建物(純額)          | 347,811           | 長期借入金          | 1,415,244         |
| 工具、器具及び備品       | 179,666           | その他の           | 2,922             |
| 減価償却累計額         | △87,218           | <b>負債合計</b>    | <b>7,121,298</b>  |
| 工具、器具及び備品(純額)   | 92,448            |                |                   |
| 建設仮勘定           | 876               | <b>(純資産の部)</b> |                   |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>1,166,642</b>  | <b>株主資本</b>    | <b>3,353,478</b>  |
| ソフトウェア          | 141,832           | 資本金            | 787,148           |
| ソフトウェア仮勘定       | 49,989            | 資本剰余金          | 756,148           |
| のれん             | 274,820           | 資本準備金          | 756,148           |
| 契約関連無形資産        | 700,000           | 利益剰余金          | 1,810,180         |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>1,734,343</b>  | その他利益剰余金       | 1,810,180         |
| 投資有価証券          | 563,638           | 繰越利益剰余金        | 1,810,180         |
| 関係会社株式          | 6,000             | <b>新株予約権</b>   | <b>12,665</b>     |
| 繰延税金資産          | 273,735           |                |                   |
| 敷金及び保証金         | 890,970           | <b>純資産合計</b>   | <b>3,366,143</b>  |
| <b>資産合計</b>     | <b>10,487,441</b> | <b>負債純資産合計</b> | <b>10,487,441</b> |

## 損益計算書

(2019年6月1日から  
2020年5月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目              | 金 額        |
|------------------|------------|
| 売上高              | 22,459,941 |
| 売上原価             | 16,256,432 |
| 売上総利益            | 6,203,509  |
| 販売費及び一般管理費       | 5,209,522  |
| 営業利益             | 993,986    |
| 営業外収入            |            |
| 受取利息             | 208        |
| 有価証券売却益          | 1,457      |
| 還付加算金            | 866        |
| 先物取引決済益          | 1,186      |
| 関係会社業務受託収入       | 1,200      |
| その他              | 1,315      |
| の                | 6,233      |
| 営業外費用            |            |
| 支払利息             | 3,923      |
| 支払手数料            | 1,767      |
| 為替差損             | 5,907      |
| その他              | 4,368      |
| の                | 15,967     |
| 経常利益             | 984,252    |
| 特別損失             |            |
| 本社移転費用           | 124,065    |
| 新型コロナウイルスに関連した損失 | 42,844     |
| 投資有価証券評価損        | 209,550    |
| 関係会社株式評価損        | 49,999     |
| の                | 426,459    |
| 税引前当期純利益         | 557,792    |
| 法人税、住民税及び事業税     | 289,332    |
| 法人税等調整額          | △92,034    |
| 当期純利益            | 360,495    |



## 連結計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2020年7月21日

UUUM株式会社  
取締役会 御 中

#### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 本 間 愛 雄  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 鴫 田 直 樹  
業務執行社員

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、UUUM株式会社の2019年6月1日から2020年5月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、UUUM株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 連結計算書類に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2020年7月21日

UUUM株式会社  
取締役会 御 中

#### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 本 間 愛 雄  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 鴫 田 直 樹  
業務執行社員

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、UUUM株式会社の2019年6月1日から2020年5月31日までの第7期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査等委員会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2019年6月1日から2020年5月31日までの第7期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

#### 2. 監査の結果

##### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。

- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2020年7月21日

UUUM株式会社 監査等委員会

|                |       |
|----------------|-------|
| 社外取締役（常勤監査等委員） | 山田裕介印 |
| 社外取締役（監査等委員）   | 砂田浩孝印 |
| 社外取締役（監査等委員）   | 長南伸明印 |
| 社外取締役（監査等委員）   | 河島勇太印 |

(注) 監査等委員山田裕介、砂田浩孝、長南伸明及び河島勇太は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以上



## 株主総会参考書類

### 議案及び参考事項

#### 第1号議案 定款一部変更の件

##### 1 定款変更の理由

当社の今後のビジネス展開をより多角的に行うため、現行定款第2条に定める目的について新たな目的の追加等の所要の変更を行うものであります。併せて、現行定款第1条に定める当社商号の英語表記の変更、市場拡大に向けた当社取締役会の機能強化に備えるため、現行定款第18条第1項に定める取締役（監査等委員である取締役を除く。）の員数の上限を1名増員する変更を行うものであります。

##### 2 定款変更の内容

現行定款および変更の内容は次のとおりであります。

（下線部分に変更箇所を示しております。）

| 現行定款   | 変更案  |
|--|--|
| <p>（商号）<br/>第1条 当社は、UUUM株式会社と称し、英文では、UUUM <u>co.,ltd</u>と表示する。</p> <p>（目的）<br/>第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。</p> <p>1.～36.（条文省略）<br/>（新設）<br/>（新設）<br/>（新設）</p> <p><u>37.</u> 前各号に附帯関連する一切の業務</p> <p>（員数）<br/>第18条 当社の取締役（監査等委員である者を除く。）は、5名以内とする。<br/>2.（条文省略）</p> | <p>（商号）<br/>第1条 当社は、UUUM株式会社と称し、英文では、UUUM <u>Co.,Ltd.</u>と表示する。</p> <p>（目的）<br/>第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。</p> <p>1.～36.（現行どおり）<br/><u>37. 古物の売買</u><br/><u>38. 音楽、映画、演劇、演芸、講演の制作及びその請負と興行並びにその施設の運営、請負</u><br/><u>39. 海外の芸能タレント、音楽家、映画監督、脚本家、演出家、スポーツ選手、文化人等の招聘</u><br/><u>40.</u> 前各号に附帯関連する一切の業務</p> <p>（員数）<br/>第18条 当社の取締役（監査等委員である者を除く。）は、6名以内とする。<br/>2.（現行どおり）</p> |

**第2号議案** 取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件

現任の取締役（監査等委員である取締役を除く。以下本議案において同じ。）全員（5名）は、本株主総会終結時をもって任期満了となります。つきましては、市場拡大に向けた当社取締役会の機能強化を図るため、第1号議案（定款一部変更の件）における取締役の員数の上限の増員が原案どおり承認可決されることを条件として、取締役を1名増員し、取締役6名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、監査等委員会は、各候補者は当社の取締役として適任であると判断しております。また、当社では、取締役の指名、報酬等に関する手続きの公正性、透明性、客観性を強化し、コーポレートガバナンスの充実を図ることを目的とし、取締役会の諮問機関として過半数が独立社外取締役で構成される指名報酬委員会を設置し、取締役会は、事前に指名報酬委員会に諮問したうえで取締役候補者を決定しております。

取締役の候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号   | ふりがな<br>氏名<br>(生年月日)                        | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)  | 所有する当社の株式数 |
|---|---|--|------------|
| 1   | 再任<br>かま だ かず き<br>鎌 田 和 樹<br>(1983年12月3日生) | 2003年10月 株式会社光通信入社<br>2006年11月 テレコムサービス株式会社出向<br>2010年4月 株式会社光通信執行役員<br>2013年6月 当社設立<br>当社代表取締役<br>2019年6月 当社代表取締役社長 CEO（現任）<br>2020年1月 SUGAR株式会社代表取締役（現任） | 7,043,930株 |
| <p><b>【取締役候補者とした理由】</b><br/>           当社創業者として、強力なリーダーシップを発揮するとともに、当社所属の専属クリエイターとの強固な信頼関係を築いております。また、YouTube動画、これにかかるプロモーションに関して豊富な知識を有し、当社の経営方針や事業戦略の決定において極めて重要な役割を果たしております。このようなリーダーシップや豊富な知識、またクリエイターとの強固な信頼関係は、引き続き、当社の企業価値向上に不可欠であると判断し、取締役候補者としてしました。</p> |   |  |            |

| 候補者番号 | ふりがな氏名<br>(生年月日)   | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)  | 所有する当社の株式数 |
|-------|--|--|------------|
| 2     | 再任<br>うめ かげ ただ ゆき<br>梅 景 匡 之<br>(1978年3月3日生)   | 2001年3月 株式会社NEXS入社<br>2007年10月 株式会社光通信入社<br>2010年4月 同社統括部長<br>テレコムサービス株式会社取締役<br>2014年7月 当社入社<br>2014年12月 当社取締役<br>2019年6月 当社取締役 COO (現任)<br>ライブ・エンタテインメントユニット、<br>メディアユニット、社長室、システムユニット担当                           | 72,860株    |
|       | 【取締役候補者とした理由】<br>創業間もない当社に入社後、当社のクリエイターサポート事業をはじめとする事業全般の執行責任者として、現在まで当社を成長させてきた実績を有しております。この実績及びYouTubeに対する深い見識は、引き続き、当社の事業執行において不可欠かつ当社の企業価値向上に資するものと判断し、取締役候補者となりました。 |  |            |
| 3     | 再任<br>なか お みつ ひろ<br>中 尾 充 宏<br>(1977年5月17日生)   | 2001年4月 丸三証券株式会社入社<br>2003年1月 株式会社日広 (現GMO NIKKO株式会社) 入社<br>2006年6月 株式会社F1メディア入社<br>2007年4月 株式会社インタースパイア (現ユナイテッド株式会社) 入社<br>2011年3月 株式会社ナンバーエイト設立<br>代表取締役就任<br>2014年7月 当社入社<br>2014年12月 当社取締役 (現任)<br>アライアンスユニット担当 | 157,080株   |
|       | 【取締役候補者とした理由】<br>創業間もない当社に入社後、当社企業向け案件全般の営業担当、コーポレート部門の統括を歴任し、当社の成長に大きく寄与、コーポレート部門強化に大きな役割を果たしました。引き続き、当社の企業価値向上に果たす役割は大きいと判断し、取締役候補者となりました。                             |  |            |

| 候補者<br>番号 | ふ り が な<br>氏 名<br>(生 年 月 日)   | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)  | 所有する当社<br>の 株 式 数 |
|-----------|---|--|-------------------|
| 4         | 再任<br>わた なべ たかし<br>渡 辺 崇<br>(1982年9月9日生)  | 2005年4月 ゴールドマン・サックス証券株式会社入社<br>2010年12月 同社ヴァイス・プレジデント<br>2014年12月 当社取締役(現任)<br>コーポレートユニット担当  | 144,320株          |
|           | <b>【取締役候補者とした理由】</b><br>外資系証券会社におけるインターネット業界を担当する証券アナリストとして豊富な実務経験に加え、当社入社以来、財務部門の責任者を務め、当社マザーズ市場への上場に多大な役割を果たしました。このような経験、実績は、引き続き、当社の投資戦略にかかる意思決定に資するとともに、当社の企業価値向上に寄与すると判断し、取締役候補者となりました。                        |  |                   |
| 5         | 再任<br>いち かわ よし のり<br>市 川 義 典<br>(1978年7月21日生)   | 2001年4月 三友株式会社入社<br>2006年3月 株式会社サイバー・コミュニケーションズ<br>入社<br>2009年6月 株式会社電通出向<br>2013年1月 株式会社サイバー・コミュニケーションズ<br>帰任<br>2015年10月 当社執行役員<br>2019年8月 当社取締役(現任)<br>バディ・プランニングユニット担当 | 40,600株           |
|           | <b>【取締役候補者とした理由】</b><br>広告業界でのメディアプラン設計や企画開発等、実務経験に加え、当社入社以来、主要事業であるインフルエンサーマーケティング事業、クリエイターサポート事業において責任者を務め、現在まで当社を成長させてきた実績を有しております。この実績およびYouTube、インフルエンサーマーケティングに対する深い見識は、引き続き、当社の企業価値向上に寄与すると判断し、取締役候補者となりました。 |  |                   |

| 候補者<br>番号   | ふ り が な<br>氏<br>(生 年 月 日)                     | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)   | 所有する当社の<br>株式数 |
|---|---|---|----------------|
| 6   | 新任<br>やま だ ゆう すけ<br>山 田 裕 介<br>(1953年12月26日生) | 1977年 4月 野村証券株式会社入社<br>1999年 6月 同社取締役<br>2003年 4月 同社常務取締役<br>2003年 6月 同社常務執行役兼野村ホールディングス株式会社執行役<br>2009年 3月 株式会社ジャフコ常務執行役員<br>2009年 6月 同社常務取締役<br>2013年 4月 同社専務取締役<br>2014年 7月 当社常勤監査役<br>2015年 6月 東洋エンジニアリング株式会社社外取締役<br>2015年 8月 当社取締役(常勤監査等委員)(現任) | 66,800株        |
| <p><b>【取締役候補者とした理由】</b><br/> 証券会社、ベンチャーキャピタルでそれぞれ取締役を歴任し、豊富な業務運営、企業経営経験と幅広い見識を有しています。当社第2期の監査役を務め、また当社第3期より継続して5期(5年)に渡り当社の監査等委員である取締役を歴任され、事業推進とのバランスを考慮した適切な監査を通じて、当社の発展に大きく貢献されました。<br/> これらのことから、今後の当社による市場拡大に寄与すると判断し、取締役候補者としました。<br/> なお、同氏は現在、当社の監査等委員である取締役であります。本議案が原案どおり承認可決された場合、監査等委員である取締役を辞任いたします。</p> |   |   |                |

- (注) 1. 各候補者と当社の間には特別の利害関係はありません。  
2. 各候補者の所有する当社の株式数は、2020年5月31日現在の株式数を記載しております。  
3. 当社は山田裕介氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しておりますが、本議案が原案どおり承認可決された場合、本総会終結時をもって当該契約を終了する予定ではありません。

**第3号議案 監査等委員である取締役1名選任の件**

現任の監査等委員である取締役のうち河島勇太氏は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査等委員である取締役1名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、本議案につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

また、取締役会は、事前に指名報酬委員会に諮問したうえで監査等委員である取締役の候補者を決定しております。

監査等委員である取締役の候補者は、次のとおりであります。

| 氏名<br>(生年月日)               | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)  | 所有する当社の株式数 |
|----------------------------|--|------------|
| 再任<br>河島勇太<br>(1983年2月6日生) | 2008年12月 弁護士登録(第二東京弁護士会)<br>2009年1月 森・濱田松本法律事務所入所<br>2018年1月 同法律事務所パートナー(現任)<br>2018年8月 当社取締役(監査等委員)(現任) | 一株         |

**【監査等委員である社外取締役の候補者とした理由】**

弁護士として企業に関する法務、特にコーポレートガバナンスに精通し、企業経営を統治する十分な見識を有しております。当社のコーポレートガバナンスの強化、ひいては当社の企業価値向上に果たす役割は非常に大きいと判断し、取締役候補者としてしました。なお、河島勇太氏の当社監査等委員である社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって2年であります。

- (注) 1. 河島勇太氏は、森・濱田松本法律事務所のパートナーであり、当社と同法律事務所の間には顧問契約がありますが、同氏は、当社の委任案件には一切関与しておりません。また、同氏は、当社の「独立役員選任基準」を満たしております。
2. 候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
3. 河島勇太氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役の候補者であります。
4. 河島勇太氏は、直接会社経営に関与された経験はありませんが、長年の弁護士としての識見と経験を有していることから、当社の監査等委員である取締役に就任した場合、その職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。
5. 河島勇太氏が監査等委員である社外取締役に選任された場合には、当社との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を継続する予定であります。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める額です。
6. 候補者の所有する当社の株式数は、2020年5月31日現在の株式数を記載しております。

**第4号議案** 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

監査等委員である取締役が法令で定める員数を欠くことになる場合に備え、あらかじめ補欠の監査等委員である取締役1名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、補欠の監査等委員である取締役につきましては、監査等委員である取締役が法令に定める員数を欠くことを就任の条件とし、その任期は前任の監査等委員である取締役の任期の満了すべき時までといたします。

また、その選任の効力は、就任前に限り、監査等委員会の同意を得て、取締役会の決議により取り消すことができるものといたします。

なお、本議案につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

また、取締役会は、事前に指名報酬委員会に諮問したうえで補欠の監査等委員である取締役の候補者を決定しております。

補欠の監査等委員である取締役の候補者は、次のとおりであります。

| ふりがな<br>氏名<br>(生年月日)               | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)   | 所有する当社の株式数 |
|------------------------------------|---|------------|
| かとう まさひろ<br>加藤 昌弘<br>(1972年8月16日生) | 1995年4月 株式会社タートル（現株式会社学研エル・スタッフィング）入社<br>2003年8月 加藤昌弘行政書士事務所 開設<br>2006年10月 株式会社レッド・エンタテインメント入社<br>2008年2月 株式会社ぐるなび入社<br>2017年2月 当社入社<br>2019年6月 当社内部監査室長（現任） | 600株       |

**【補欠の監査等委員である取締役の候補者とした理由】**

行政書士の資格を有しており、企業のリスク管理に関する知見を有しております。さらに当社の内部監査室長職に就いていることから、監査等委員としての職務を適切に遂行できると判断し、補欠の監査等委員である取締役候補者といたしました。

- (注)
1. 加藤昌弘氏が監査等委員である取締役に就任した場合、就任した時を以って当社従業員を辞職いたします。
  2. 加藤昌弘氏が監査等委員である取締役に就任した場合には、当社との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は会社法第425条第1項に定める額です。
  3. 候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
  4. 候補者の所有する当社の株式数は、2020年5月31日現在の株式数を記載しております。

以上

## 株主総会会場ご案内図

会場：東京都港区六本木七丁目18番18号  
住友不動産六本木通ビル ベルサール六本木 B 1  
TEL 03-3479-1621



交通 東京メトロ日比谷線 六本木駅 2番出口より 徒歩約2分  
都営大江戸線 六本木駅 4b出口より 徒歩約4分